

外科系医師のための手術に役立つ臨床研究

本多通孝 ● 著

〔評者〕金尾祐之 (がん研有明病院婦人科副部長)

手術にかかわる外科系若手医師にとっての最大の関心事は、毎日訪れる手術を安全に乗り越え、執刀件数を増やすことではないかと思います。私自身もちろん同様の思いで20年近く手術技量を磨くべく邁進してきたつもりです。ところが最近になって「自分の行っている手術が本当に患者さんの恩恵につながっているのだろうか？」とふと考えることがあります。このような“壁”にぶつかる外科医は少なくなく、その場合、カルテ記載を調べ自分の行ってきた手術成績を検討する、いわゆる“後ろ向き研究”を行い、満足(安堵)しているのではないのでしょうか。私を含め手術技量の向上に注力し、臨床研究について系統的に学ぶ機会がなかった外科系医師にとっては、それしか方法がないといっても過言ではないと思います。

本書『外科系医師のための手術に役立つ臨床研究』は、臨床研究とは何か、Research Question (RQ)の整理の仕方、研究デザインの構築などといった臨床研究の

基本的な考え方から、バイアス、交絡因子のコントロールの方法、またわれわれが絶対的な指標と信じているp値、多変量解析に潜むわななどについて非常にわかりやすく、系統的に解説されています。特に本書第4章に記載されている論文作成の方法は秀逸で、初めて原著論文を書く若手医師のみならず、いままで何本も論文作成を行ってきた医師にとっても目からうろこの内容であり、臨床研究に興味がない方にとっても必見の価値があると確信します。また最後には昨今話題になることが多い研究不正についても言及されており、著者である本多通孝先生の臨床試験に対する熱い思いを感じられる内容です。

本書は若手外科医師を対象として書かれています。若手医師はもちろんのこと、いままで臨床試験を系統的に学ぶ機会がなかった私のような中堅医師にとっても非常に役立つ内容が満載であり、「もっと早いうちに出合っていれば……」と思わせる間違いな



く名著です。

これからの日本の医療を支える若手外科医には必ず手に取って目を通してほしいと思わせる一冊です。

A5・頁244

2017年11月

定価：本体3,500円＋税

[ISBN978-4-260-03259-9]

医学書院 刊